



くみはまだより



平成30年12月25日 発行：久美浜市民局

<創刊号>

国道312号橋爪バイパスが開通！



整備後(上空から)
下側が新しい道路(延長500m)です。

12月9日(日曜日)整備が進められていました国道312号橋爪バイパスがついに開通しました。

同日、午前10時から開通感謝式(道路改良促進期成会が主催)が開催され、京丹後市からは三崎市長も出席し盛大に行われました。

これまで久美浜高校前のカーブは、道幅が狭く見通しが悪いため事故が多発する場所でした。また、久美浜方面へ向かう車線にはバスの停車スペースがなく、乗り降りの際はバスが片側車線を塞いでしまうため、渋滞ができる原因にもなっていました。

このバイパスができたことで見通しが良くなり、またバスの停車スペースも設けられたため、これらの問題が解消されます。

今後も同様の問題を抱える国道312号野中バイパス(仮称)、国道178号十楽バイパス(仮称)についても整備が進められており、順次開通していく予定です。人も車も事故のない安心安全な道路となるよう早期完成が待ち望まれています。



整備後
道幅も広くなり見通しがいいのがわかります。



整備前
道幅が狭くバスが中央線をはみ出しながら走行しています。

川上地区で持続可能な農村地域づくり勉強会が始まる

川上地区自治振興会では、市の小規模多機能自治推進補助金を活用し、持続可能な地域づくりを進めるための勉強会を3回シリーズで計画し、12月13日(木曜日)に第1回目の勉強会が開催されました。

川上地区でも例外なく人口減少と少子高齢化が進行し、基幹産業である農業の担い手の減少や耕作放棄地の増加が課題となっています。

自治振興会では、自治組織の強化と経済的に自立できる農業振興の地域づくりを進めることで、人口減少に歯止めをかけたいとの思いから農業営農法人の設立や広域化、6次産業化などを目指し、まずは核となる人材(理解者とリーダー)を育成することを目的としています。

第1回目となる勉強会では、大宮町奥大野区長 川口 勝彦さんから「最先端の田舎を目指して！」と題して講演と意見交換が行われました。川口さんからは奥大野区の組織体制や花いっぱい運動、防災計画の策定などの地域づくりの取組、農業広域化や農業法人化、移住・定住を推進し、地域外人材の活用や地域外ファンづくりの取組など具体的な事例を紹介していただきながらわかりやすく説明していただきました。

参加者からは、「地域づくりを進めるためには、女性のアイデアや活躍が最も重要だということを再認識した。」「とにかく考えるより行動。動いてみないと本当の課題は見えてこないことがわかった。」などの意見が出されていました。2回目は、2月中旬「アグリ創生」、3回目は、3月中旬「女性6人で立ち上げた株式会社」と題して行われます。



久美浜病院との懇談会を実施



11月12日（月曜日）町区長連絡協議会と活性化連絡協議会（会長ら15名）は、安心して住み続けることができる持続可能な地域づくりを進めるために、大きな役割を担っている久美浜病院（赤木病院長、岩見副院長、堀副院長、藤本看護部長らが出席）との懇談会を行いました。

この懇談会は、病院が進めている地域密着の保健・医療・福祉を一体化した包括医療・ケアの取組みを自治会関係者に理解していただくとともに、懇談を通して今後の病院運営に活かすことを目的に行ったものです。

●医師の支え合いによる小児医療

赤木病院長は、久美浜病院に赴任（昭和62年）されてから現在に至るまで、地域に密着し信頼される久美浜病院を目指し、「救急搬送の全例受け入れ」や「診察依頼を断らない」という方針を掲げ、地域の医療現場が医師不足という課題を抱える中で、工夫と挑戦による医療活動を進められています。

特に医師同士の支え合いによる24時間体制の小児患者の受け入れ体制を整備され、その結果、小児の時間外の受診患者は、年間最多4,600件にものぼり、地域にとって、なくてはならない病院としての信頼を獲得してきたことを熱く語られました。

●連携と協働による地域包括ケアシステム

地域包括医療・ケアを進めるため、訪問看護ステーションの開設や病院、特別養護老人ホームなどの福祉施設、行政機関など地域の医療・介護・福祉に関わる関係者が情報を共有し、連携と協働により、きめ細やかな支援を行う仕組みを構築されました。

地域包括医療・ケアシステムを進めることで、重度な要介護状態になっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができる手厚い医療、看護、介護を提供することが可能となり在宅だけでなく老人ホームなど施設での看取りが選択肢のひとつとなりました。このことは都市部ではあり得ないことだということです。

続いて、堀副院長からは、歯科口腔外科には他府県からの来院が多いことや、全身麻酔下での集中歯科治療や、口腔ケア・摂食嚥下訓練により誤飲性肺炎を予防したことで、入院日数が減少するという成果も報告されました。歯科口腔外科への来院患者数は、年々増加しており、今や病院の経営を支える診療科のひとつとして、住民の期待にしっかり応えることができる体制が整っているとのことでした。

また、藤本看護部長からは、患者・家族に寄り添い地域に密着し、地域に開かれた病院づくりの取組みが報告されました。懇談を通して、地域の安心安全を支える久美浜病院の重要性を再認識する大変良い機会となりました。

今月のひとこと

久美浜市民局では、このたび、「くみはまだより」を発行しました。久美浜町にお住まいのみなさんに、久美浜町内の地域情報や取組みをお伝えすることにより、まちづくりへの機運が高まっていけばと思います。

市のホームページやフェイスブックにはカラー版で掲載しますので、そちらも是非ご覧ください。

久美浜町の人口

	H30.11末 (人)	構成率 (%)	【合併時】 H16.3末 (人)	構成率 (%)
0歳～ 14歳	998	10.49	1,550	13.05
15歳～ 64歳	4,814	50.62	6,670	56.15
65歳～	3,698	38.89	3,658	30.80
合計	9,510		11,878	